

平成29年度第1回日本一の健康長寿県構想高幡地域推進協議会 議事要旨

- 1 日 時 平成29年10月6日（金）18：30～19：40
- 2 場 所 須崎福祉保健所 2階会議室
- 3 出席者 ・協議会委員27名のうち22名が出席 ・オブザーバー1名
・医療政策課2名 ・事務局9名

◆委 員（敬称略）

○専門団体

- | | |
|-------|------------------|
| 田村 精平 | 《高岡郡医師会長》 |
| 武田 丘 | 《高岡郡医師会副会長》 |
| 恒石 宣彦 | 《高岡歯科医師会長》 |
| 瀧口 英寛 | 《薬剤師会高陵支部長》 |
| 田井 仁美 | 《看護協会須崎・窪川地区支部長》 |

○保健医療福祉関係機関

- | | |
|--------|--------------------------|
| 岡村 理佐 | 《障害者支援施設》 |
| 市川 利恵 | 《障害者就労継続支援施設》 |
| 松岡 健夫 | 《高齢者施設》 |
| 森畑 東洋一 | 《小児科診療施設》 |
| 森本 智宏 | 《高幡広域社協連絡協議会副会長》 |
| 本井 ゆき | 《高知県介護支援専門員連絡協議会高幡ブロック長》 |
| 谷脇 秀幸 | 《高知県保険者協議会医療計画検討部会委員》 |

○地域組織団体・住民の代表

- | | |
|-------|--------------------|
| 熊田 敬子 | 《健康づくり婦人会連合会長》 |
| 吉岡 厚子 | 《食生活改善推進協議会長》 |
| 津野 修三 | 《管内民生児童委員連絡協議会副会長》 |

○行政関係

- | | |
|--------|--------------|
| 吉本 加津代 | 《須崎市健康推進課長》 |
| 森光 澄夫 | 《須崎市長寿介護課長》 |
| 北川 洋子 | 《須崎市福祉事務所長》 |
| 今橋 順子 | 《中土佐町健康福祉課長》 |
| 今橋 一彦 | 《津野町健康福祉課長》 |
| 山本 康雄 | 《四万十町健康福祉課長》 |
| 上岡 啓二 | 《須崎福祉保健所長》 |

◆オブザーバー（敬称略）

- | | |
|--------|--------------|
| 朝比奈 正芳 | 《高岡郡医師会事務局長》 |
|--------|--------------|

議事等概要

- 1 開 会
- 2 須崎福祉保健所長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 事務局自己紹介
- 5 副会長選出
《副会長》上岡啓二
- 6 会長挨拶

7 議事

(1) 高幡地域の重点目標について

【事務局説明】

- ・須崎福祉保健所管内の取組について

(2) 地域と職域が連携した働き盛りの健康づくりについて

【熊田委員報告】

- ・平成28年度健康づくり推進部会活動報告

【事務局説明】

- ・平成29年度活動計画について

【質疑、意見等】

(会長) 清流荘さんは、職員の健診事後において、再検査・要精密の必要な方への声かけや、保健指導にも力を入れていることから、チャレンジ表彰を受けています。職員への健康づくりの取組について、松岡委員ご報告をお願いします。

(松岡委員) うちの職場は介護職場であり、女性が非常に多い職場です。平均年齢も48歳となっており、健康診断では高血圧症やコレステロール等問題のある職員が多いです。そこで、特に変わった取組みではないのですが、決められたことにコツコツと取り組んでいます。健康診断の受診率は100パーセントとなっており、介護職員につきましては、年2回の健康診断を行っています。そのなかで、衛生管理者が、健診受診後に必ず個別に面接を行い、問題のある職員には再受診等を勧め、追跡確認を行っております。また、看護師もおりますので、健康面については看護師にも相談できるような職場づくりをしています。また、昨年からは、保健所のほうにもお願いしまして、メンタルヘルスの出前講座も行っており、ストレスチェックも始まりましたので、メンタル面では十分気をつけた取組をしていきたいと考えております。メンタルヘルスについては、今のところ特に長期間休む職員はいませんが、これからも対策を継続したいと思います。また、職業病ともいえる腰痛についても、低床ベッドへの交換などを行いまして、介護現場でもトランスファーについて十分研修を行い取り組んでいきたいと考えております。介護職員が非常に不足しておりますので、離職がないように、健康な体で仕事ができる職場づくりをしたいと考えております。

(会長) 健康パスポートは十分機能しているのですか。

(事務局) 健康パスポート事業は昨年9月からスタートしており、取得者も増えていきます。健康パスポートを使って特典を受けたり、ポイントを貯めたりして、楽しみながら健康づくりを行う取組みになっています。

(会長) せっかく健診を受けたので、一人ひとりが結果をしっかりと見て、コメントを書いたりする作業も大事だと思います。清流荘さんがやっているような職場での声かけも必要だと思います。

次に、血管病対策の推進というのは、健診を受けるということですか。

(事務局) まず特定健診を受けていただいて、市町で未治療の方や治療中断の方を医療機関につなげる取組を実施しています。

(3) 第6期高知県保健医療計画高幡圏域アクションプランについて

【事務局説明】

- ・高幡圏域アクションプラン（在宅医療・小児医療）の現状、課題、対策
- ・平成29年度の取組について

【質疑、意見等】

(会 長) アクションプランでは、コンビニ受診を抑制し、小児科の負担軽減を目指して取り組みを進めてきましたが、この5年間で保護者の受診行動について感じられることはありませんか。

(森畑委員) 適正受診について保護者に啓発をしてきましたが、その効果もあって、深夜の救急の輪番体制の整備に取り組んでいると感じます。その結果として、たらいまわしにされるということがほとんどなくなっており、必ずどこかの病院に診てもらえる体制が整っています。また、#8000（こうちこども救急ダイヤル）の認知度もかなり上がってきたと思います。コンビニ受診については、家族の気持ちに立つと心配する気持ちも良く理解できますが、日常診療の中で「こういうときは〇〇をしてよろしい」というように指導をしていく必要があると感じます。また、昔に比べて子どもの病気は軽症化してきており、入院を要する患者は少なくなっています。その理由として、ワクチンの種類が非常に増えていることが考えられます。小児の医療体制を考えていくときに、ワクチンの接種を勧奨していくことは、小児の救急患者を減らすことができ、非常に重要であると思われます。また、高速道路ができたことによって、高知市内まで30、40分で行けるようになり、お母さん方の心配事も減ったのではないかと思います。

(会 長) 須崎くろしお病院でも、小児科の入院はめったにありません。夜間・土日の救急外来をやっていますが、けがをして来院する方はいても、小児科疾患で来院する方はいません。また、#8000を利用する方も多いみたいで、電話で対処法を聞いて納得されるケースも多いようです。以前は内科の先生は子どもを診ていましたが、子どもを診ない先生も増えてきており、院長としても「診てほしい」とは言いづらい現状です。しかし、保護者にとっては、症状が重いか、軽いかの判断が難しく、不安な気持ちを抱え病院を頼っているのではないかと思います。市町の方では、保護者の不安の声など聞かれていますか。

(須崎市健康推進課) 須崎市でもコンビニ受診は少ないです。小児科の先生は経過を話して下さりますので、お母さん方も心の準備ができる部分があるかと思います。#8000についても、健診で毎回話をし、普及に努めております。また、孤立した子育てというのが様々な不安を呼ぶので、お母さん同士をつなぐ活動も行っています。県外から転入されたお母さんは、「夜間の小児科が無いんですね」とおっしゃるのですが、そういう方には転入された時に須崎市の状況を説明して、「救急はこういう所を利用できます」とお話していますので、それほどの混乱はないと思っています。

(今橋(順)委員) 夜間に輪番制の病院に問い合わせても小児科医が不在の場合があり、高知市内まで車を走らせるお母さんが多いと聞いております。高知県の救急医療情報センターで受診できる病院を教えてもらっても、休日分の薬しか出ないので、再度かかりつけの小児科に薬をもらいに行く必要があるため、日曜日は我慢して月曜日に小児科に行くこともあるようで、「休

日に受診したときに必要な日数分の薬を出してもらえるとありがたい」という要望の声を聞いています。また、「日曜日に診療している小児科が市内にある」という情報もお母さん方の間で共有されているようです。育児の不安が、子どもの具合が悪い時にクローズアップすることがあると思うので、須崎市さんも言われていましたが、日頃の子育ての中で孤立しないように、日頃から心配事の相談を受けるといったことなどが行政の役割なのかなと思います。県外から帰ってこられたお母さんや転入されたお母さんは、「本当に小児科が無いんですね」とつぶやかれますが、高知県内、高知市以外は大体このような感じですので、がんばりましょうといったところです。

(会長) ありがとうございます。議題3の高幡圏域アクションプランの「在宅医療・小児医療」につきましては、今年度2回目のこの協議会で、平成25年度から5年間の取組みの評価について報告をすると聞いております。よろしくをお願いします。